私の名前は、ロス・デイリーといいます。
私は音楽家で、いわば異文化間に存在している人間です。
…というのは、私の人生の境遇を意味しています。

私は幼い頃から、単なる訪問者ではなく、**居住者**として世界の様々な地域で暮らしてきました。

そのため、私は自分自身を定義する時、どれか１つの民族や地域文化の特徴に当てはめることができないと感じます。

簡単に言えば、私は多くの異なる文化のネイティブな環境下で暮らすという、とんでもない幸運に恵まれたわけです。

それらの暮らしは、どれもほぼ同等に私に影響を与え、すべてが私の中で自分のものと感じるようになりました。

ただし、ここで言う「自分のもの」とは、所有の意味ではなく、それらが私に属するというよりはむしろ、私の一部がそれらに属しているということです。

今日は、私の母国語の英語で話すことをご容赦ください。これは私にとって話しやすいから、という理由ではありません。

この講演の目指すところは実際的にかなり明確な提案であり、ここギリシャにとどまらず、世界の他の地域の人々にも関心を持ってもらえるのではないかと感じるからです。

やがてインターネットを媒体として、誰もがこれを聞けるようになったとき、我々の時代のリンガフランカ（国際共通語）である英語が、良くも悪くも、この提案を伝わりやすくしてくれるでしょう。

***
先ほど言いましたように、私は音楽家です。
多くの人が、どちらかと言えばぼんやりとした興味を抱いている、**モーダル（旋法）音楽**というものに何十年も取りつかれている音楽家です。

私は生涯にわたり、この種の音楽の現れ方、広がりに深く関心をもち、インスパイアされてきました。

自分の中のこの興味に気づいたのは、比較的若い（１４歳）頃、世界的に主要なモーダル（旋法）伝統のひとつである、北インド古典音楽のコンサートで、当時もっとも偉大な芸術家のひとりでサロードの巨匠、故 Ustad Ali Akbar Khan の演奏を聞いてからでした。

このコンサートは、当時私が住んでいたサンフランシスコのちょうど南にある、大学の比較的小さな劇場で開催されました。

それまでの私は、子供の頃にチェロを、そして思春期には古典と現代様式のギターを習っていました。

ところがこのインド古典のコンサートを聴いた時、その音楽は明らかに私の耳に全く新しいものだったにも関わらず、私はたちまち不思議な親近感を覚え、それをよく知っているような気さえしたのです。

それは経験したことのない感じ方、そしてそれまでに経験したどの音楽よりもはるかに深く心に響きました。

コンサートが終わって家に帰ると、私は自分のギターで、今聴いた音をいくつか、出来る限り再現してみようと試み、そしてすぐに気づきました。この音楽を演奏するには、この音楽のため特別に設計された楽器が必要だということに。

こうして、このひとつのコンサートは私にとって、そういった楽器を研究したいという新たな願望の発見と共に、世界の様々な地域を巡る長い長い旅の始まりを示し、さらに広いモーダル音楽の世界における様々な伝統音楽の、素晴らしい巨匠の方々の指導のもとに研究していくことになります。

旅と研究のために多くの場所を訪れる間に、私は明確なイメージを
持ち始めました。西洋の人々があまり認識していないような何かを。

モーダル音楽の世界は、ざっとアフリカ西部から中国西部にかけて広がり、
その間のほとんどすべての地域を網羅しています。

それが事実であるだけでなく、この地理的に広大な地域で見受けられる、実に多様な伝統のすべてが、ある意味お互いに繋がりあっているようなのです。

たとえば、これらの地域のほとんどすべての民族にとって、なんとなく馴染みがあったり、理解しやすいものであること。

たとえば、中国西部のウイグル・アンサンブルの演奏するムガーム音楽の曲が、モロッコ人にとって妙に馴染みがあったり、同じように、モロッコのアンサンブルが演奏するヌーバ音楽の曲が、カシュガル出身のウイグル人にとって全く異質な音ではない、など。

一方、ドイツ人やベルギー人にとっては、そのどちらの例にもまったく馴染みがなく、理解しにくいようです。

私は、こういった様々な音楽の伝統を深く掘り下げていくほどに、モダリティによる音楽のこの広大なコミュニティには、数千年にもわたって明確に遡ることができる歴史的な側面があるということに気づいていきました。

おそらくここで、モーダル音楽とは一体何なのか、簡潔に定義をしておかななくてはならないでしょう。

とても単純に言えば、モーダル音楽とは、モード（旋法）を使うことに焦点を当てた音楽のジャンルです。

実際、モードを正確に定義することは非常に難しいのです。

それらはしばしば、西洋人にとっての長音階・短音階と同じように、単なる音の素材または音階と捉えられます。

とても種類の多い（実際、数百に及ぶものも）これらの音階はどれをとってみても、西洋人の耳にとっては奇妙な音の配列であり、いわゆる調律されていない音を使っているように聞こえます。

それはつまり彼らが、西洋音楽の平均律音階、すなわち１２の等間隔の半音で構成されるオクターブを用いていないということです。

むしろそれは、明確で精密な数学的計算によって導き出された、他の音間隔のすべてを含んでおり、それと同等に精密で旋律的な、膨大な音の配列、そして表現の可能性へと開かれています。

しかしながら、これらのモードを単に音階として定義しても、その音楽の本質を理解することにはなりません。

様々な言語によるそれらのモードは、たとえばラーガ（インド音楽。raga という単語は、サンスクリット語の色に由来します）、

マカーム（中東および中央アジアの音楽。アラブ語の maqam は、位置や地位、留まる場所を表しており、同じく音楽モードに従って精神的な発達段階も同等に表します）、

イホス（一般的に音を表すギリシャ語で、ビザンチン教会音楽のモードを指します）、

そしてトロポス（古代ギリシャ語でモードを指す用語、tropos は、態度、様式、論理の次元、あるいは状況によっては変化や流動的な状態にあるものを指す多面的な用語）

これらの用語を見るだけでも、単なる音階よりもはるかに包括的な何かを指し示していることは明らかです。他にも例はたくさんあります。

***
ペルシャのある有名な音楽学者による、次のモードの定義は、私にとって問題を明確にするのにいつも役立ちます。

A 点から B 点まで、長さの決まったラインがあるとします。A 点が単に音の素材としての音階、B 点が充分に成熟した旋律であるならば、すべてのモードは、この 2 点間のライン上にあると。

音階に近いものもあれば、成熟した旋律により近いものもある。しかし、この 2 点のうちのどちらかだけで適切な定義ができるものはないのです。

*****
モードは、音楽のフレージングと密接に関わっています。

それらのフレーズは通常とてもシンプルですが、本質的にかなり柔軟なもので、それぞれが旋律の核として働き、さまざまな形式や表現へと発展、拡大させていくことができ、しかも、それらについての知識を習得した人々には、常にそれがはっきりと認識できるように保たれます。

こう例えれば一番理解しやすいかもしれません。あるモードを知るということは、ある人と知り合いになる、ということにとてもよく似ています。

それはもちろんとても複雑で包括的、実に時間のかかるプロセスで、我々のもてる創造的な感覚と能力を総動員しなければなりません。

それは、音楽のモードを知ることについても同じなのです。

この相似に照らしてみれば、モードを理解するために音階だけを勉強するということは、骨格を勉強してその人を知ろうとする、ようなもので、それは目指すところではありません…

***

先ほど述べたように、モーダル音楽は地理的に広大な地域全体に普及しており、その様々な民族や地域で現れているものが、互いに関係し合っているネットワークが、明らかに見て取れます。
それは、歴史的な分析の観点からだけでなく、比較的訓練されていない耳で聴いても明らかです。
何世紀どころか何千年にもわたって互いに影響を与えあってきた、とても複雑に入り組んだこのネットワークを解明することは、今日でも非常に困難な作業であり、決して完全には出来ません。
しかし、こういった音楽表現を研究している人にはすぐ明白になると思いますが、それぞれが持つ豊かさや美しさは、継続的に寄せては返す影響の波…あるいは潮の満ち引き、広大な潮の流れのようなものに完全に委ねられているのです。

***
このプロセスはまた、多くの点で、植物の異花受粉のプロセスにも似ています。

実際に、私は植物界における地域的な多様性の類似が、特にモーダル音楽のそれと関連していることに、しばしば気づくことがありました。

多くの場合、フレーズやモードはあるひとつの地域で発生し、いわば花粉や種のように広がって、他の地域で別の生命体と混じりあい、最終的に、新しい環境の状態に応じて開花するのです。

***
おそらくはこういった理由から、私は常に音楽のことを、人間が特に創造したものというよりも、自然現象ととらえてきました。

人から生まれるのでなく、人を通して生まれるものだと。

その源泉に、それぞれ名づけるのは自由ですが、中には、おそらく賢明な人は、名づけないことを好む人もいます。

***

興味深く、時に紛らわしいことには、世界の中で我々が暮らしているこの地域は、非常に古い古代の名前を持つ、数々の現代国家の本拠地であるということです。

ギリシャ、エジプト、シリア、イスラエル、アルメニア、ペルシア、インドなど。

しかしこれらはすべて、民族国家、政治的国家としてはオーストラリアよりもずいぶん新しいのです。

***
これは、それらの国家の文化的プロファイルを作り上げることを買って出た人々にとっては、おもしろくない事実です。

そうすると、多くは狭量で、たいてい深刻に歪められた自民族中心主義で文化的ステレオタイプの描写をもたらし、概して、あくまでも外国の影響を受けていないことを強調します。

残念なことに、この地域では近世の歴史を通じて、こういった傾向の文化的な姿勢が支配していたようです。

一般大衆の地域的、民族文化的なアイデンティティと、上意下達の国家が作り上げた文化的ステレオタイプとの間の混乱が、しばしば非常に問題となり、いくつかの極端なケースでは、実に酷いことになっています。

いずれにせよ、その地域の豊かな伝統音楽を継続的に繁栄させていくためには、地域間の継続的な影響の流れが必要であることを考えれば、それは確かに逆効果であることが証明されます。

もちろん、問題となっている国のほとんどの人々は、ふつうは自分達の地域の文化について、少なくとも公正な知識を持っていますが、すぐ隣の国の文化については、知識があるとしてもごく僅かであったり、これに加え、西側世界から頻繁に及ぼされる文化的なヘゲモニーも非常に重く、結果として、地域の大多数の若者が、レディー・ガガの最新ヒット曲についての詳細な情報を得ながら、隣人が文化的に何をしているかの情報は皆無という、異常なことになっています。

***
そこで私の提案ですが、

もしも問題の地域の文化が、刺激的な文化的プロトタイプを生み出し続けることが出来るようになれば、それは地元の人々による、成熟した芸術的な参加を奨励することになります。

このためには、過去に存在していたような、異文化交流と対話のネットワークが必要になるでしょう。

昔の時代に、素晴らしい個々の伝統を生み出した時と同じような交換と対話、それはどちらかというと停滞しており、多くの場合衰退してはいるものの、今でも私たちはそれに遭遇することがあります。

これらの伝統の多くは、せいぜい「民俗的遺物」の役割に追いやられ、最悪の場合には、安価な大衆文化のための安い飼料として。それは西側世界の、それほど羨ましくもない大衆文化の、貧弱な模倣に過ぎません。

***
こういった対話を再燃させるには、実際、関わる人全てのまったく新しい文化的な視点、文化、政治的に一般的に認識されているものを、いま一度完全に再考することを伴う視点が必要です。

まず第一に、あらゆる形態の文化的相互作用は、定義上、公平なギブアンドテイクであり、交換であるということを、すべての人が明確に認識しなければなりません。

残念ながら世界の、特に私たちの地域の公的な文化政策は、「与える」ことに重きを置きすぎ、「受けとる」ことがなおざりにされているようです。

別の言葉で言えば、誰もが自分の文化の「男性性」、または中国語でいう「陽」の側面（広めること、他の人に影響をあたえること、主張的な側面）を、とても誇りに思っているようです。

しかし、彼らは「女性性」または「陰」の側面（受容的または同化的な側面）を、いくらか軽視したいようです。

それはまるで彼らのアイデンティティが、他人に影響を与えたという事実によって肯定され、他人から影響を受けることで、なんとなく否定され失われるように感じているかのようです。

しかし、この姿勢はまったくもって、非現実的でしかありません。

提供されたものを消化吸収し、それと共に創造的な活動ができないなら、次に提供する番がきた時、実際なにかを与えることにどんな希望が持てるのでしょうか？

もちろん、過去少なくとも2014年間は普通に発生していないという処女懐胎を信じない場合、の話ですが。

文化、そして特に芸術においては、すべての創造的な活動は、ギブ＆テイクによる相互作用の結果なのです。本当にシンプルなことです。

***
私は何年もの間、ラビリンス音楽研究所（Labyrinth Musical Workshop）の芸術監督を務めています。

現在は、ここクレタ島の Houdetsi という村にあります。

ラビリンスでの私達の主な活動のひとつは、世界の様々なモーダル音楽の伝統に焦点をおいたセミナーやマスタークラスを、定期的に開催することです。

長年の活動を通して、まさに何十名ものモーダル音楽最高峰の巨匠達と、何千名もの受講生を受け入れてきました。

しかしこの間、私達はどれかひとつの文化を宣伝しようとした事はなく、一般的にモーダル音楽を売り込むつもりさえありません。

私達がしているのは、ここに来るすべての人が、自分自身の姿で他のすべての人と平等に交流できるよう、我々や他の人からの干渉を出来る限り抑えた場所と機会を提供することです。
その結果、必然的にそれぞれが自分の時間とやり方で徐々に対話を重ねていく中で、お互いを…他の人々を発見することになり、多くの場合、彼ら自身の必要性と性格に応じて、本格的な協力関係やコラボレーションに繋がっていきます。

ラビリンスでは人々が実際ともに活動するだけではなく、民族、宗教、文化的背景に関係なくお互いに仲間であることを楽しむ素晴らしい能力の反映を、私は何年にもわたって目撃してきました。そんなストーリーを何百でも何時間でも語ることができますが、残念ながら今は時間が許してくれません。

理解力のある人なら、我々が世界の未来に実行できるのは次に挙げること、これしかない、と気づかざるを得ないでしょう。

明らかにすべての人にとって有益な目標に向かうためには、異なる背景をもった異なる人々の間に、平等な条件での協力関係を増やしていくこと。

この一般的な道理を私が「取りつかれている」モーダル音楽に適用してみると、今日私たちがいるクレタ島は地中海のちょうど中央にあり、東と西、北と南の文化的な繋がりも良く、礼儀、繊細さ、謙虚さ、そして関わる人すべてが文化的に無傷で生存していくために非常に必要な、まさにそういった多面的な対話をもって人々を招くのに理想的な場所であると、心から思います。

先ほども言ったように、私は Hodetsi にあるラビリンスで、その縮図を実際に見てきました。それは個々のミュージシャン達が彼らの間でどのように調和して統合するかだけでなく、とても重要なことに…クレタの人々自身が、長い歴史の中のホスピタリテ

ィ、そして無数の文化的影響を受け創造的に融合してきた彼ら自身が、まさにこのような挑戦に対していかに前向きに応えてくれているか、ということです。

ここに、遠く離れたところから人がやって来るのは単なる偶然ではありません。アフガニスタン、北アフリカ、アラブ半島、南コーカサス、バルカン半島、トルコ、インド、スペイン、そして無数の、モーダル音楽がみられる広大な他地域から来た人々は皆、ここをホームのように感じるようです。
そしてまた非常に重要なのは、クレタ音楽そのものが、明らかにこのモーダルの伝統の大きな一群に属しているということです。

おそらく、我々がモーダル音楽の伝統という小さな主題に焦点を当てつつ、このような対話と協力をうまく確立することが出来れば、私達が種としての生存に関わる重大な問題において、同じような対話を確立する好例として、役に立つかもしれません。